



# 天空率チャレンジ - 第3回ルール詳細 -

## 審査の POINT

- ボリューム（体積）が大きく取れているか。
- 天空率の特性を上手く活用しているか。

## 基本ルール

- ・ 計画敷地 A または B のいずれかを選択して下さい。
- ・ 選択した計画敷地内に最大の体積となるボリュームを計画して下さい。
- ・ 建築物としての実現可能性を考慮する必要はありません。
- ・ 計画可能なボリュームの最高高さは 25m とします。
- ・ 別表に用意された立方体ブロックのみを自由に組み合わせて下さい。
- ・ 立方体ブロックの大きさ、形状の変更はできません。
- ・ すべての立方体ブロックを使用する必要はありません。
- ・ 立方体ブロックの上面 / 下面 / 側面は水平・垂直とし、平面的な回転のみ可とします。
- ・ 立方体ブロック同士の重複は不可とします。
- ・ 立方体ブロックは浮いていても可とします。

大きさ (W×D×H)	形状	最大数量
10m×10m×10m	立方体	4 ブロック
8m×8m×8m	立方体	5 ブロック
6m×6m×6m	立方体	8 ブロック
4m×4m×4m	立方体	12 ブロック
2m×2m×2m	立方体	24 ブロック

※ルールに関するご質問は、ウェブページの天空率チャレンジお問合せフォームよりお願いいたします。

## 法規について

- ・ 天空率を含む斜線制限（法第 56 条及び関連政令）以外の法規は考慮しません。
- ・ 上記より、容積率（法第 52 条）、建蔽率（法第 53 条）、日影規制（法第 56 条の 2）、高度地区（法第 58 条）も考慮する必要はありません。
- ・ 用途地域は準住居地域、採用容積率は 400%、適用距離は 30m です。
- ・ 与条件の用途地域及び容積率は、斜線勾配、適用距離を規定するためのものです。
- ・ 道路斜線制限に適合する計画として下さい。隣地斜線制限は考慮しません。

## 天空率の取り扱いについて

- ・ 天空率の方式は JCBA 方式とします。
- ・ 適合建築物の後退距離の指定はありません。
- ・ 安全率はシステム計算において 0.02% 以上とします。

## 提出物

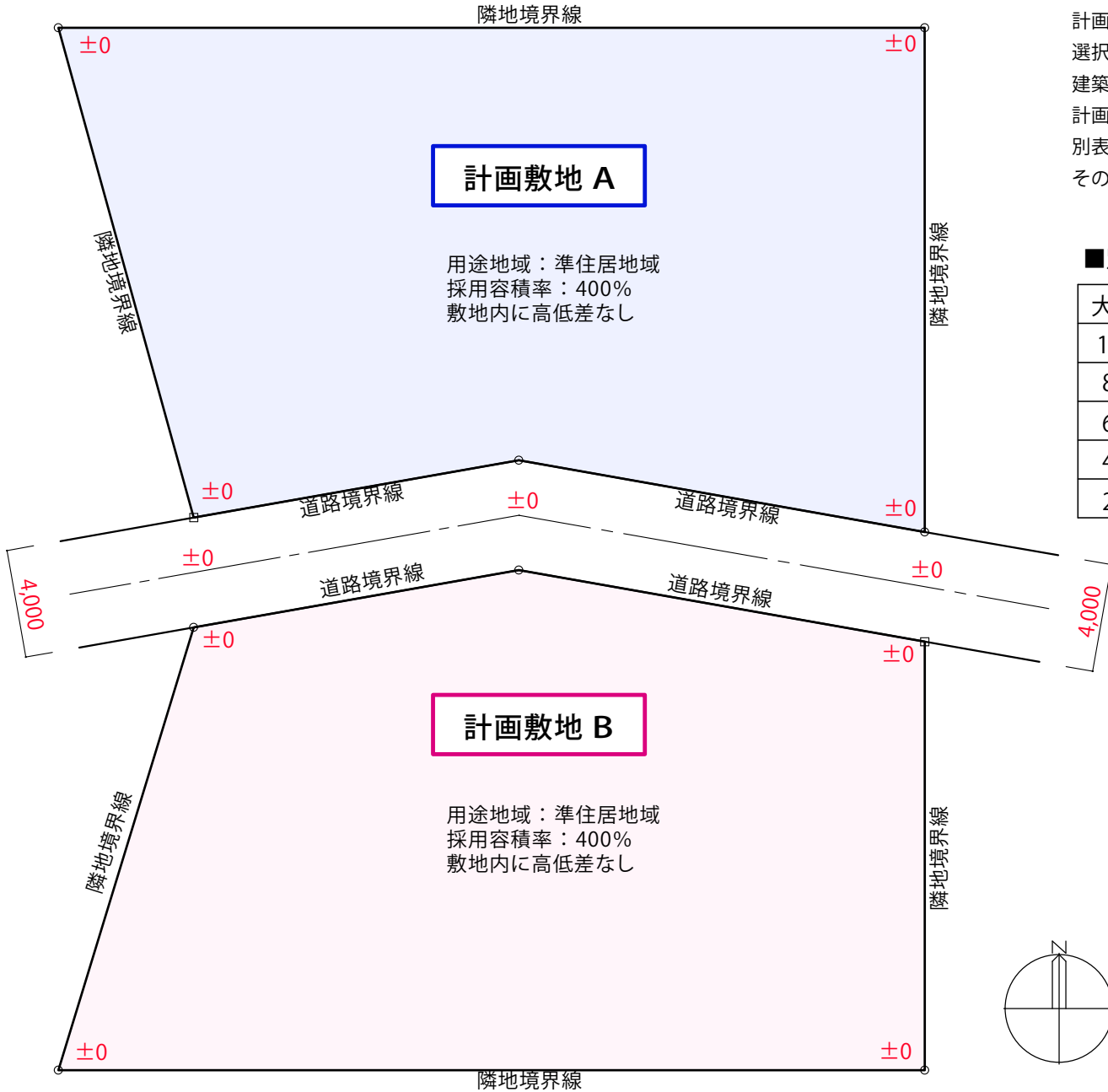
- ADS シリーズ（ADS-win、ADS-LAX、ADS-LA）利用者：ADS データ (.adsf)
- ADS-BT シリーズ（for ARCHICAD、for Revit、for VECTORWORKS）：  
各 BIM データ (.pln、.rvt、.vwx)
- その他のソフト利用者：平面図、配置図、計算結果、を PDF にて提出（別 PDF 参照）

### 第3回天空率チャレンジ 基本ルール

計画敷地AまたはBのいずれかを選択して下さい。  
 選択した計画敷地内に最大の体積となるボリュームを計画して下さい。  
 建築物としての実現の可能性を考慮する必要はありません。  
 計画可能なボリュームの最高高さは25mとします。  
 別表に用意された立方体ブロックのみを自由に組み合わせて下さい。  
 その他のルールの詳細は弊社ホームページをご覧ください。

■別表

大きさ (W×D×H)	形状	最大数量
10m×10m×10m	立方体	4ブロック
8m×8m×8m	立方体	5ブロック
6m×6m×6m	立方体	8ブロック
4m×4m×4m	立方体	12ブロック
2m×2m×2m	立方体	24ブロック



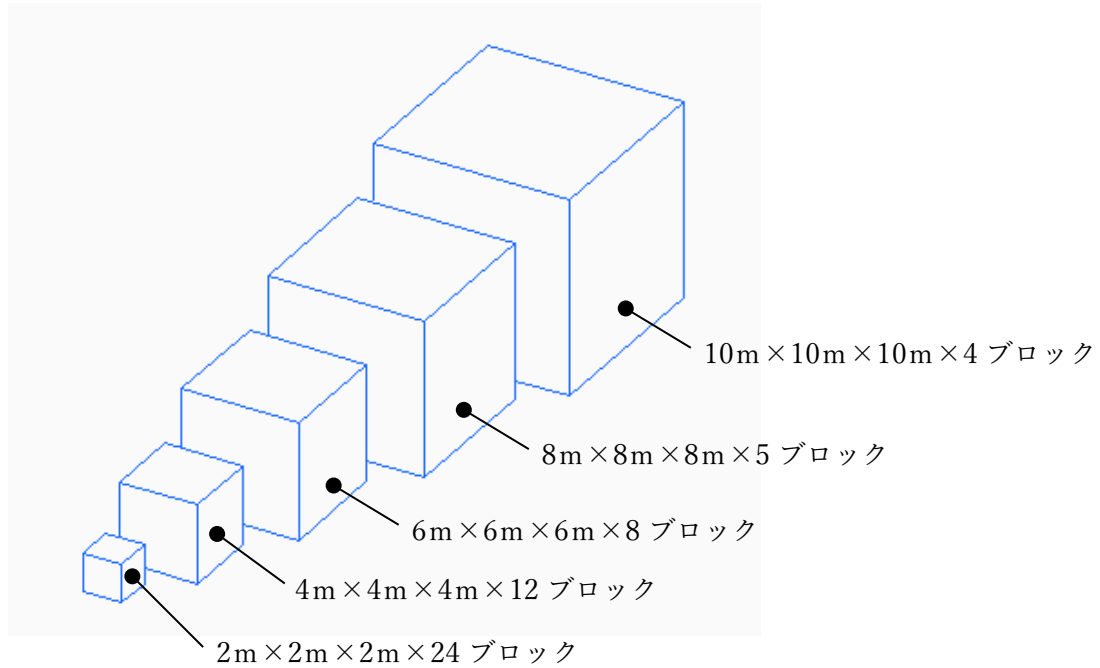
**計画敷地 A**

用途地域：準住居地域  
 採用容積率：400%  
 敷地内に高低差なし

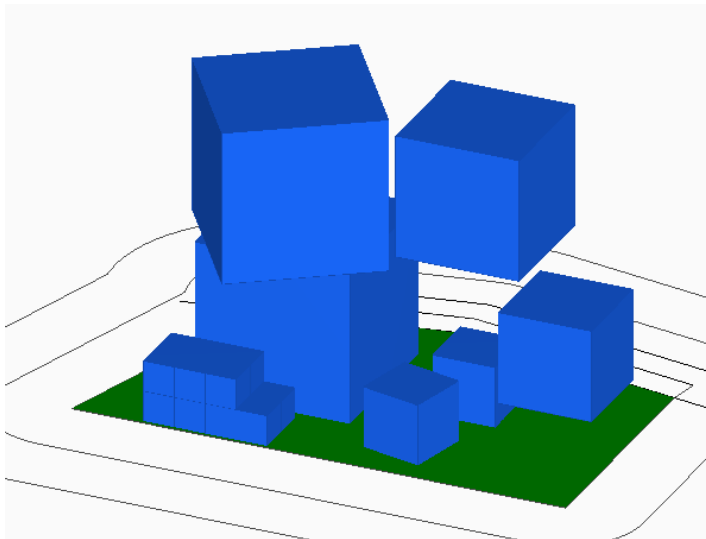
**計画敷地 B**

用途地域：準住居地域  
 採用容積率：400%  
 敷地内に高低差なし

## ■立方体ブロック

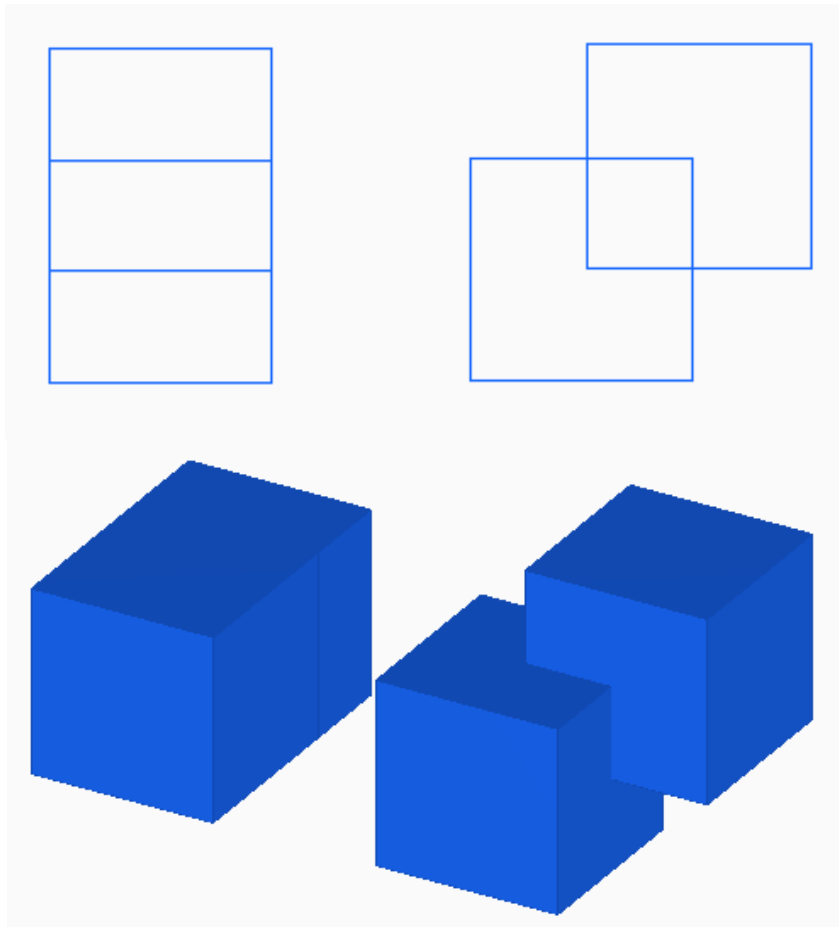


## ■立方体ブロックの組合せ例



- ・立方体ブロックの上面/下面/側面は水平・垂直とし、平面的な回転のみ可とします。
- ・立方体ブロックは浮いていても可とします。

■立方体ブロック重複（NG）の例



・立方体ブロック同士の重複は不可とします。